

マルトリートメント傾向のある親とその子どもへの包括的心理支援プログラムの構築と試行

研究1 小学生保護者用養育行動尺度の作成

【 目 的 】

本研究の第一の目的は、児童期の親の養育行動を網羅的に測定できる信頼性・妥当性のある尺度の開発と、それによって測定される各種養育行動と子どもの心理的不適応・問題行動傾向と適切な社会情緒的発達との関連の検討である。我が国においては既に多くの親子関係検査や養育態度尺度は開発され実用化されているが、行動理論の立場から実証された養育技法と、自己調整能力や社会性・道徳性の発達理論の観点から、それらの発達を促進することが実証された適切な養育行動を網羅的に測定可能な養育行動尺度は少なく、幼児期の子どもを持つ親用に開発された三銘(2008,2009)以外に例を見ない。

児童期の親子を対象に包括的心理支援プログラムの効果検証を行うためには、網羅的な観点に立ちつつ、養育対象に児童を想定した養育スキル尺度の開発が必要である。近年、小中学生の保護者向けの養育行動を測定する肯定的・否定的養育行動尺度(伊藤他,2014)が開発された。この尺度は、内外の既存の養育行動尺度を網羅的検討し、肯定的養育行動3因子(「関与・見守り」、「肯定的応答性」、「意思の尊重」と否定的養育行動3因子(「過干渉」、「非一貫性」、「厳しい叱責・体罰」)の36項目頻度を問う程度副詞が与えられた4件法の尺度である。2つの下位尺度で信頼性が低い、児童の適応状態についての保護者用評定尺度であるSDQ(Goodman, 1997)を用いた併存的妥当性の検証では、肯定的養育行動各下位尺度で向社会的行動と.21～.38の相関が、否定的養育行動の各下位尺度では情緒的症状と.23～.30の相関が、そして行為問題とは.19～.40の相関が得られ、相関の値は必ずしも高くはないが、外的基準との間に予想された関連性が示されており、実用に耐えられる尺度と言える。

しかしながらこの肯定的・否定的養育行動尺度には、(1)児童期に高まる共感・向社会的行動傾向、行動的・感情的自己調整能力、道徳的推論能力の促進要因となる養育行動と、児童期の仲間関係の不適応と密接に関わる攻撃行動並びに社会的後退行動のリスク・ファクターとなる養育行動が必ずしも網羅されていない、(2)子どもの適応・不適応指標との関連がやや低い上に、重回帰分析により1次因子の適応・不適応の諸変数への独自の寄与について明らかにされていない。

そこで本研究では、肯定的・否定的養育行動の上記の弱点を改善し、児童期子どもをもつ親のための網羅的な養育行動尺度の作成を作成し、信頼性・妥当性の検討、ならびに児童の心理的不適応・問題行動傾向と適切な社会情緒的発達との関連を検討する。

【 方 法 】

業者への委託によるWeb調査を実施した。

(1)調査対象者：NTTコム・オンライン・マーケティング・ソリューションにモニター登録している成人男女で小学生の子どもの保護者320名(母親156名、父親164名)

(2)質問内容

a.小学生保護者用養育行動尺度原版

60項目、5件法(まったくそうではない(1点)、たまにそうである(2点)、ときどきそうである(3点)、たいていそうである(4点)、いつもそうである(5点))。児童期において、攻撃行動(aggression)、社会的引きこもり(social withdrawal)、のリスク・ファクターである養育行動と感情・行動の自己調整(self-regulation)や共感(empathy)・向社会的行動(prosocial behavior)の発達を促進する養育行動を取り上げ、先行研究を参考にしつつ自作した。

b. Family Diagnosis Test(FDT)

東・柏木・繫多・唐沢(2002)のFDT(親用)より、基本的受容7項目、不介入4項目、無関心5項目を抜粋して使用(まったく当てはまらない～よくあてはまる、5件法)

c. Child Social Behaviors Scale for Parents(CSBS-P)

Crick & Grotpeter(1994)によるCSBS-Pより、攻撃行動4項目(この子どもは仲間を叩いたり蹴ったりする、等)、向社会的行動4項目(この子どもは、他の仲間から拒否されている子どもを気の毒に思って助けようとする等)。5件法(全然そうでない～よくあてはまる)

c. CBCL

不抑うつ・不安尺度16項目、3件法(ぜんぜんあてはまらない(0点)、少し・ときどきあてはまる(1点)、よく・

対角線の下半分は父親 (n=164), 上半分は母親 (n=156) *** p<.001; ** p<.01; * p<.05, † p<.10

